

	情報発信	コミュニティ形成・連結	プロジェクト創出	プロジェクトのショーケース
アウトプット（事業量）	目標・事業計画 情報発信 100件 [100、100]	① イノベーション人材のコミュニティ形成 88回 [88、88] 学生、VC、起業家、支援機関、企業対象としたイノベーター人材のコミュニティ形成のためのセミナー等 ② 海外ワークショップ（学生、起業家） 2回 [2、2]	① ニーズ顕在化プログラム 20回 [20、20] ② ハッカソン（ものアプリ、ソフト系） 6回 [6、6] ③ 公開型イベント（オープンイノベーションマッチング、投資家・起業家マッチング） 6回 [6、6] ④ 非公開型イベント（事業開発研究会） 12回 [12、12]	● 国際イノベーション会議開催 プロジェクトのプロモーション機会創出 参加者：650人以上 [200人以上、400人以上]
	実績 ● イベント告知 日本語 178本、英語 31本 ● イベントレポート 日本語 3本、英語 4本 ● 起業家紹介等 日本語 39本、英語 9本 ● ニュース 日本語 34本、英語 24本 ● HP新コンテンツ 日本語 7本 ● FB投稿 日本語 219本、英語 38本 ● メルマガ 25本、DM81本、プレスリリース 5件 計 697 [736、736]	① イノベーション人材のコミュニティ形成 119回 [141、121] ② シリコンバレーツアー 2回 [2、2] 平成28年2月22日～2月27日実施 ※参加者 39人 [35人、32人]	① 20回（アイデアソン等） [21、21] ② 11回（ものアプリハッカソン等） [12、22] ③ 16回（イノベーションエキスポ、ピッチイベント等） [6、10] ④ 22回（メンタリングサポート等） [12、13]	● 国際イノベーション会議「Hack Osaka 2016」を開催 日時：平成28年2月17日（水）午後1時～午後7時 場所：グランフロント大阪 コングレコンベンションセンター テーマ：さらなるイノベーション創出に向けて ※吉村 大阪市長による開会あいさつとイノベーション宣言 (1) 基調講演：ウィリアム・タヌウィジャヤ氏（Tokopedia 創業者） (2) グローバル チャレンジャーズ トーク： 竹村詠美氏（Peatix.com 共同創業者） (3) パネルディスカッション： アレックス・ファーセット氏（Startupbootcamp 共同創業者）、 ダニエル・オーダツフィ氏（WeWork Labs ディレクター）、 ジェームズ・ライニー氏（500 Startups Japan 代表）他 (4) インターナショナルピッチコンテスト（10チーム中7チームが国外） ※サブ会場にて、ベンチャー企業のプロモーションや、大企業、VC、メディア等との出会いの場を提供 ● 参加者数 602人 [307人、515人]
アウトカム（成果）	目標・達成水準 国内外のメディアに取り上げられる 定量的指標（開設からの累計） ① HPのユーザー数 100,000 [30,000、60,000] ② FBの「いいね」数 4,000 [2,000、3,000] ③ メルマガ登録者数 10,000 [3,000、5,000] 定性的指標 ● メディア掲載数及びメディアによる評価	起業・イノベーション創出を担う人材を輩出する多様なコミュニティの活動が活性化している 定量的指標（開設からの累計） ① 会員制度（Osaka Hackers Club）登録者数 600 [200、400] ② Osaka Hackers Club 会員（プレイヤー・パートナー）が持つ 情報発信対象者数 9,000 [3,000、6,000] 定性的指標 ● コミュニティの形成が促進されている ● 多様なコミュニティが参画している ● グローバルネットワークが形成されている	イノベーション創出に資するプロジェクトが具体化している 定量的指標 ① 事業化プロジェクト創出支援件数 50件 [20、30] （投資を受けたプロジェクト（調査回答分）約17億円） （事業化定義） ● 守秘義務、共同研究等契約関係、ソフトフェア等における試作版の公開、資金調達に向けた具体的なアクション ● スーパープロデューサーが認定したもの	国内外から注目度が高いプロジェクト発表の場として、国際イノベーション会議が評価される 定量的指標 ① 海外関係からの参加者数 100人程度 [100、100] ② メディアでの掲載数 前回、前々回を上回る10件以上 定性的指標 ● メディアによる評価内容 ● YouTube、Facebookの情報発信効果
	目標設定の考え方 平成26年度の実績を勘案して設定している	平成26年度の実績を勘案して設定している	25年～27年度の3ケ年で、プロジェクト創出支援100件を目標（1年目20件、2年目30件、3年目50件）	時宜にあったテーマ設定や効果的な情報発信を行うことで、少なくとも昨年度並みの成果を設定している
	実績 定量的指標（開設からの累計） ① 176,168 [67,527、119,753] ② 4,652 [2,125、3,447] ③ 11,051 [3,977、7,393] 定性的指標 ● WEBメディア掲載 80回 [18、27] ● 新聞・雑誌掲載 89回 [22、14] ● テレビ放映 21回 [2、12] ● 国際会議のインドネシア人登壇者が、東南アジアの多数のWEBメディアで、「新聞の今後の事業展開を考えるハッカソン」が全国の新聞社でそれぞれ紹介された。	定量的指標 ① 574人（プレイヤー417人、パートナー157人） [268、446] ② 14,958人 [6,487、9,076] 定性的指標 関係先とネットワーク構築 ● Osaka Hackers Clubを活用して企業、大学、VC等のネットワークを広げている。 ● 今年度は、新たに英国ロンドン市、イスラエルの支援機関、ムスリムのコミュニティ等が参画するハッカソン、セミナーなどを開催した。	定量的指標 ビジネスプランコンテストや、プログラムでの成果発表等を通じて形成されたチームの状況の把握に努めている。 ① 53件 [22、40] ● 今年度、起業家チームの活動スペース「Innovation Base」を新設し、プロジェクト創出を支援している。	定量的指標 ① 外国人参加者数 87人、比率 87/602で14.5% [69人/307人で22.5%、99人/515人で19.2%] ② 23件 [9、8件] 定性的指標 ● Ustream 視聴者数：585件 [2,106、245] ● Facebook 投稿：34件 [76、106] ● Facebook いいね：646件 [369、499]他

評価：S 目標・達成水準を上回っており、特筆すべき進捗状況にある  
 B 目標・達成水準の到達に向けて、おおむね進捗している  
 A 目標・達成水準に到達しており、順調に進捗している  
 C 目標・達成水準の到達のために、重大な改善事項がある

自己評価	平成 27 年度 段階別評価	A	B	A	B
	自己評価 各事項別 コメント	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 情報発信数は目標を上回っているものの、過去実績比では低下。FB 発信数を適正化したことや、DM によらずに集客ができるようになってきたことなどが要因。</li> <li>● FB 発信の適正化と平行し、英語でのイベントレポートや起業家紹介を行った。</li> <li>● アウトカムも目標を超えているものの、過去比では、メルマガ会員数の増加が鈍化している。潜在的なユーザーには一定浸透しつつあると考えているが、様々な機会を通じて新規開拓に取り組む。</li> <li>● 東南アジアの成功起業家が日本の国際会議に登壇したことが、東南アジアのWEBメディア業界にとってニュースバリューがあり、海外への発信につながったこと、新聞ハッカソンが全国に発信できたことは、効果的なパブリシティとなった。特にWEBメディアの海外発信効果を再認識した。国際会議とは別の機会に、香港やシンガポールのWEBメディアに大阪の取組みを紹介する機会もあった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 外部団体との共催イベントを継続して開催しており、イベント参加者数も昨年度比で順調にのびている。首都圏のアクセラレーターによるイベントや、鳥取県や神奈川県の外郭団体との共催事業、さらに経済産業省の女性起業家支援事業も開催し、関西のイノベーション創出拠点として、関連事業の集積が進んでいる。</li> <li>● 大阪ハッカーズクラブ会員は、目標数に達しない見込みであるが、会員の活動状況に濃淡もあるので、いたずらに数だけを追求せず、定期的に会員継続の意思確認を行い、積極的に取り組む会員を見出していきたい。</li> <li>● 今年度からイベント後に飲食を伴う交流会をイノベーションハブで開催することを可能とし、イベント参加者の交流促進を図ることができた。</li> <li>● 以上を通じて、会員組織やイベント参加者から熱意のある人材を見出し、新事業の創出につなげる取組みを強化していく。</li> <li>● 海外ワークショップは、英語で質疑応答できる能力と、現地の投資家等にアピールする意義のあるビジネスプラン（試作品）を持つ参加者を集めることが課題。</li> <li>● 世界 400 都市の関係者が集まるスマートシティエキスポ（バルセロナで開催）において、本事業を紹介することができ、世界へ発信する良い機会となった。現在、そこで出会ったテルアビブと連携事業を準備している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 今年度は、KDDI∞Labo や Tech in Asia、NICT（情報通信研究機構）主催の「起業家万博」・「起業家甲子園」などの外部の著名な機関との連携によるピッチイベントを開催。</li> <li>● 都市銀行や大手メーカーとのオープンイノベーションイベントの開催も順調。</li> <li>● 新聞協会による、今後の新聞業界の事業展開を考えるハッカソンや、関東で開催されている大規模家電見本市シートックを本戦とするハッカソンの予選を実施するなど、多彩なハッカソンを開催した。</li> <li>● 上記には、関西圏外の手企業から持ち込まれた企画もあり、拠点の知名度とオープンイノベーション志向、双方の高まりを実感できた。</li> <li>● 経産省の委託事業と共催で実施した、アクセラレーションプログラムでは、在阪の先輩起業家によるメンタリングを中心に、新設の作業スペース「Innovation Base」を活用して有望な起業家の事業化を後押しし、事業化目前の起業家を輩出した。「関西の先輩起業家による支援」の枠組みもできた。</li> <li>● このような取組みの結果、プロジェクト創出は目標の 100 件を上回る 114 件を達成した。</li> <li>● イノベーションハブの認知度の高まりを背景に、共催パートナーとなる多くの外部団体呼び込み、充実したプロジェクト創出環境を提供できたと考えている。今後は、更に新規のプロジェクト創出をめざすとともに、これまでのプロジェクトの成長支援にも取り組んでいく必要があると考えている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 「更なるイノベーションの創出に向けて」をテーマに、アジアの新進起業家や、世界で活躍する日本人女性起業家等が登壇し、アジア地域からイノベーションを起こして行く機運を示せた。</li> <li>● また、グローバルイノベーション創出支援事業で支援した起業家による出展ブースや、起業を果たした学生らによるトークセッションもあり、平成 25 年度からの 3 年間の成果を示すショーケースとなった。</li> <li>● 昨年に引き続き、英語での開催や、ピッチコンテスト、VCとの個別セッションなど充実した内容で、来場者の 80%強から満足、やや満足という評価を得た。（サブ会場は 60%弱）</li> <li>● ただ、参加者数は過去最高であったが目標数には達しなかった。</li> <li>● 外国人数も目標に達せず、前回実績も下回った。しかし、キーノートスピーカーがインドネシア人起業家であったことが、東南アジアのWEBメディアで取り上げられた点は、海外発信面で成果があったとも言える。</li> </ul>
3 か 年 自 己 評 価	平成 25 年度 段階別評価	A	A	A	A
	平成 26 年度 段階別評価	A	A	B	A
	平成 25～27 年度総括	A	A	A	A
来 年 度 の 方 針	<ul style="list-style-type: none"> <li>・連携する国内外のコミュニティや（WEB）メディア、関係機関及び、HPユーザー数やSNS等でつながる数を増やし、発信力を高めていく。</li> <li>・WEB発信のコンテンツでは、日本語だけでなく英語の充実にも努めていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き外部団体との共催イベントを誘致し、幅広いプログラムを展開していく。</li> <li>・会員組織は、会員の活動状況の把握に努め、積極的に活動する会員のいっそうの巻き込みを図る。</li> <li>・イノベーション創出に取り組む人材を増やしていくため、コミュニティの誘致活動や、学生等を対象とした起業家教育を実施する。</li> <li>・有望なビジネスプランや試作品を有する起業家が海外ワークショップに参加するよう、計画性を高めた募集作業を行う。</li> <li>・人材を集め、プロジェクト創出につなげていくスーパープロデューサー機能を高めるため、つなげる機能としてコネクター人材をイノベーションハブに配置する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・起業家教育を実施し、プロジェクトを創出できる人材を育成する。</li> <li>・イノベーションハブにおけるコーディネート機能を高め、チームビルディングや支援者との連携を支援して、新規のプロジェクト創出に努める。</li> <li>・メンタリングや大企業との連携等を支援してプロジェクトを育てていく機能を強化し、事業化を加速させていく。</li> <li>・ピッチイベントを増やし、ベンチャーが資金獲得や事業連携を果たす多くの事例を生み出す。</li> <li>・上記の取組みによって、ベンチャー支援活動の自立化を進める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国際会議の実施を委託方式から、民間との実行委員会方式に改め、民間のノウハウやネットワークを活用して発信力強化を図るとともに、イノベーション創出活動の自立化を進めていく。</li> <li>・関西エリアの留学生ネットワーク等と連携して外国人参加者数を増やす。</li> </ul>	

評 議 会 評 価	平成 27 年度 段階別評価	A	B	A	B
	平成25～ 27 年度総括	A	A	A	A
	事業総括 コメント	<p>・この 3 年間を振り返り、アウトプット、アウトカムともにほぼ目標が達成されていること、外部の著名な機関や企業等とも連携して事業展開を進める機会が増えてきていること、海外との連携も進んでおり、大阪イノベーションハブの取組みについて世界に向けて発信できていること等をふまえ、総合的にAと評価する。次年度以降についての課題として、プロジェクト等を通じて創出できた新しいアイデア等の事業化の推進、学生等イノベーション創出に取り組む人材の誘引、大企業のオープンイノベーションのムーブメントとの連携、グローバル展開のさらなる強化等、次のステージに向けて、質を向上させた一層の取組みに期待する。</p> <p>・改善すべき点は多々あると思うが、3年前に戻って今現在を見た場合、評価できる内容。特に、プロジェクト創出という、一番重要なところが、大阪、関西の経済圏に対する大きなインパクトを持つわけで、大きな可能性を感じる。一部のアウトカムが目標未達とはいえ、重要性のある差ではない。質の問題のほうが重要であって、プロジェクトのショーケースについてもAでも構わない。</p> <p>また、例えばイベントの参加者数に注目を見ると、コミュニティの形成・連結についても大変いい道筋ができていますので、これもBでなくてもいい。したがって総合的な評価として3年間でAというのは大変的確。</p> <p>・アウトプット、アウトカム、自己評価を見ると、ずい分土台ができ、成果として加速して広がってきている感じがする。これから次のステージに入るいいタイミングだと思うが、クオリティーを上げる工夫が必要。事業のスタートのところと、あとは死の谷を迎えそうなものをどうサポートするかぐらいの、少し絞って考えてみるのもよい。シリコンバレーのベンチャーと話をしていると、ハードベンチャーは日本のほうが有利かもしれないという声もあり、大企業のみならず、ものづくり系も多い大阪の中小企業とハードベンチャーをどうつなげていくかも考えていくべき。</p> <p>・インドネシア人の登壇があった国際会議が、海外で取り上げられたというのは、インパクトがあったと高々とうたっていくべき。定性的なところを評価するとAでいい。少し自重ぎみにBとして、総合評価はAにすることも可。民間ではなく行政がやっているから来てくれる講演者やメンターもあると思う。それが一つのよさであるので大事にしていくといい。大企業との連携は重要だが、実はとても難しい課題。ベンチャーファンドもいい投資先がない。学生の起業のモチベーションを上げることの方がもっと重要。教育すると、すぐに起業しなくても、後にベンチャーに就職したり、起業する学生が出てくる。だから、シリコンバレーツアーに連れていくことや、スタートアップに学生がインターンシップしているのもはとても重要なこと。</p> <p>・少なくとも3年間の総括としてはAというのは妥当。非常にいいパフォーマンスが出ているのではないかと。大阪の取り組みが海外でメディアに取り上げられ、今後、海外との連携が進みそうだというのも非常にいい。全体として、例えば、ピッチが非常に盛り上がっているが、ハッカソンは、チームの組成という意味では有効であるが、プロジェクト創出の観点では、多少苦戦するところもあるとのこと。その後のプロジェクトをどう成長させていくかというフォローが課題。きっかけとか場づくり、そういう場がいいと思う。そういうきっかけとか場がベンチャーにとっては非常に有効。投資も結果としてかなりの額になったということで、実績も非常にいい。特にコミュニティ形成は、新しいバルセロナであったりとか、あるいはテルアビブとの連携を進めるということで、質的には広がっており、Aでもいいと思う。</p>			